

彙 報

会 長 西 田 龍 雄

昭和 55 年度第 1 回常任委員会

日 時：4月5日（土）午後1時15分～5時

場 所：京大会館 220 号室

出 席 者：西田龍雄，石綿敏雄，大東百合子，奥津敬一郎，徳川宗賢，平山輝男，松本克己，吉川守

欠 席 者：塩谷饒（委任状あり）

報 告：（1）常任委員選挙の結果について。

昭和55年・56年度常任委員選挙の結果，石綿敏雄，平山輝男（以上 B 大地区），松本克己（C 大地区），吉川守（D 大地区）4 氏が選出されたことが報告された。

（2）メキシコ国立自治大学スペイン語コースについて。

上記のことについて会長より紹介があった。

議 事：（1）第80回大会について。

プログラム（研究発表者及び司会者）を決定し，案内状作成の準備を行った。

（2）第81回大会会場について。

今年度秋期大会を10月18日（土），19日（日）の両日，京都大学で行うことを了承した。

（3）九学会連合について。

5月11日に行われる予定の九学会連合大会において，当学会からは柴田武氏が発表を行うことが報告された。

（4）昭和54年度決算について。

昭和54年度決算はまだ出来上がっていないが，会計監査を受けた後，

委員会に提出することです承された。

(5) 第31回国際東洋学会議について。

1983年に日本で開催される予定の上記会議を本学会としては支援することが了承された。

(6) 学術会議、文部省よりのアンケートについて。

学術用語標準化の推進についてのアンケート(文部省)、文部省科学研究費補助金に係る意見調査、学会活動状況調査(以上日本学術会議)について紹介し、回答作成の準備を行った。

(7) 語学文学研究連絡委員会委員の任期について。

上記委員会の任期について、従来本学会内規(2年間)と学術会議側の理解する任期(3年間)の間に食違いがあり、不都合が生じる場合があった。この点について検討した結果、これを委員会の議題として取り上げることになった。

昭和 55 年度第 1 回委員会

日 時：5月17日(土) 午前11時～午後2時

場 所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所会議室

出席者：西田龍雄、飯豊毅一、石綿敏雄、井上和子、岩本 忠、上野善道、
打田佐太郎、梅田博之、大東百合子、奥津敬一郎、川本茂雄、岸本
通夫、北嶋静江、北村 甫、日下部文夫、江 実、崎山 理、柴
田武、下宮忠雄、杉藤美代子、関本 至、竹内和夫、田中克彦、塚
本 勲、徳川宗賢、徳永康元、野本菊雄、林 大、早田輝洋、平
山輝男、松田伊作、松本克己、村山七郎、矢島文夫、吉川 守、吉
町義雄(以上36名)

オブザーバー：服部四郎、泉井久之助(以上副会長)、田村すゞ子、堀井令以
知(以上会計監査委員)

欠席者(委任状あり)：池上二良、池上禎造、井上史雄、大江三郎、大野 晋、
長田夏樹、風間喜代三、加藤正信、亀井 孝、木村彰一、国広哲弥、
W. A. グロータース、五島忠久、阪倉篤義、佐藤喜代治、佐藤 茂、
佐藤純一、塩谷 饒、清水克正、築島 裕、野村正良、林 栄一、

蛭沼寿雄、広戸 惇、藤原与一、前田富祺、三宅 鴻、山口秀夫、
山末一夫、和田祐一（以上30名）

欠席者（委任状なし）：池上嘉彦、大江孝男、小泉 保、橋本萬太郎、三根谷
徹（以上5名）

冒頭に、故前田諱郎氏（本会評議員）の冥福を祈って黙禱を捧げた。

報 告：（1）昭和55年、56年度常任委員選挙の結果を報告。

（2）第1回常任委員会の報告（常任委員会議事録参照）。

（3）第13回国際言語学会議について。

会長より、12月25日付で、学会より日本学術会議長あて、国際言語
学会議の共同主催申請を提出したが、4月16日にいたってその申
請を取り下げるにいたった経過が報告された。

議 事：（1）昭和54年度決算報告の承認。

事務局より提出された決算報告を検討し承認した（別表1参照）。

（2）昭和55年度予算案の決定。

事務局より提出された予算案を検討し、これを承認した（別表2参
照）。

（3）次期大会会場の決定。

昭和55年度秋期大会の会場を京都大学とすることを決定した。開催
日は10月18日（土）、19日（日）。

（4）語学文学研究連絡委員会委員の任期について。

従来2年の任期を3年に変更するかどうかについて、種々の討議が
交されたのち、これは委員会内規の変更をとるため、投票を行
った。この結果、同日付で委員会内規を変更、語学文学研究連絡委
員会委員、並びに東洋学研究連絡委員会委員の任期を3年とするこ
とが決定された。なお現在の東洋学研究連絡委員村山七郎氏、語学
文学研究連絡委員柴田武氏の任期は昭和56年3月までとすることが
了承された。

（5）第31回国際東洋学会議推進委員会委員選挙。

学術会議より要請があった上記委員の選挙を行った結果、北村甫氏

が当選した。

(6) 国際言語学者会議について。

種々の事情により、上記会議を学術会議と共催することを断念せざるを得なくなったが、服部四郎氏より同会議を日本で開催するため、日本言語学会主催、学術会議または文部省後援という形式をとる必要があり、改めてこの件を言語学会で承認するよう要請があった。種々の意見が提出され検討した結果、国際言語学者会議準備小委員会と本学会常任委員会とが話し合いを持ち、問題点を明らかにした上で、言語学会としての最終的態度を決定するという案が出され、挙手による採決の結果、賛成多数で、この案が承認された。

第 80 回大会

期 日：昭和55年5月17日（土）、18日（日）

会 場：東京外国語大学3号館3401教室

第1日（5月17日）

開会の辞： 大会運営委員長松山納

公開講演（午後2時～5時）：

小沢重男「モンゴル系言語の研究の現状と課題」

Ilse Lehiste 'Phonetic Characteristics of Discourse'

第2日（5月18日）

研究発表（午前10時～12時）：

(1) 「ユーラシア比較言語学の試み

—英語語彙 *bed* と *bid* の同源語をめぐって— 新谷光二

(2) 「モンゴル語の母音調和

—共時的及び生成音韻論的接近— 橋本邦彦

(3) 「蒙古仏典古写本における蒙古語について」

樋口康一

(4) 「言語の遊戯性について」

平賀正子

定例会員総会（午後1時～1時30分）

研究発表（午後1時30分～4時）

(5) 「韻律理論によるヘブライ語の分析」

田端敏幸

- (6) 「テンボ語音韻論におけるいくつかの問題点
—抽象的分析と具体的分析—」 梶 茂 樹
- (7) 「能格文の条件」 角 田 太 作
- (8) 「中国語における世界創造的述語」 望 月 八十吉
- 閉会の辞： 松 山 納

〔別表1〕 昭和54年度日本言語学会決算表

自 昭和54年4月 至 昭和55年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	3,300,562	1 刊 行 費	1,972,988
C 雑 誌 売 上	165,945	2 編 集 費	99,530
D 文 部 省 補 助 金	600,000	3 発 送 費	374,590
E 預 金 利 息	25,284	4 大 会 関 係 費	512,420
		5 委 員 会 費	33,920
		6 常 任 委 員 会 費	153,830
		7 九 学 会 連 合 会 費	50,000
		8 C I P L 負 担 金	52,500
		9 選 挙 関 係 費	13,920
		10 通 信 費	102,995
		11 事 務 費	77,035
		12 事 務 所 賃 借 料	60,000
		13 事 務 局 職 員 謝 金	240,000
		16 雑 費	6,532
収 入 合 計	4,091,791	支 出 合 計	3,750,260
A 前 期 繰 越	1,738,238	15 選 挙 関 係 等 準備積立金	500,000
		17 次 期 繰 越	1,579,769
計	5,830,029	計	5,830,029

○支出内訳

1. 刊 行 費	第76号	848,171
	第77号	1,124,817
2. 発 送 費	(54年4月～55年1月) 第76号他	260,998
	(55年2月～55年4月) 第77号	113,592
3. 大会関係費	第78回大会	256,870
	第79回大会	255,550
5. 委員会費	第1回	7,000
	第2回	7,700
	会計監査委員旅費(55年5月)	19,220
6. 常任委員会費	第1回	93,600
	第2回	60,230

- 人文科学紀要 国文学・漢文学 XX 第71輯
 (東京大学教養学部 国文学研究室・漢文学研究室 1980, 3)
- 人文論叢 No.5 1979 (東京工業大学 1980, 3)
- 人類科学 Nos. 31 ; 32 (九学会連合 1979, 3 ; 1980, 3)
- 人類学雑誌 Vol. 87, Nos. 2—5 (日本人類学会 1979, 4 ; 7 ; 10 ; 1980, 1)
- 聖書翻訳研究 No. 17 (日本聖書協会 1980, 2)
- 朝鮮学報 第93 ; 94 輯 (朝鮮学会 1979, 10 ; 1980, 1)
- 通信 No. 37 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1979, 11)
- 独仏文学 No. 2 (山口大学独仏文学研究会 1980, 1)
- 東方学 Vol. 59 (東方学会 1980, 1)
- 東方学会報 No. 37 (東方学会 1979, 12)
- 東洋学文献類目 1977年度
 (京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター 1979, 10)
- 東洋学報 Vol. 61, Nos. 1・2 (東洋文庫 1979, 12)
- 新潟大学教育学部紀要 No. 21 (人文・社会科学編)
 (新潟大学教育学部 1980, 3)
- 日本学士院紀要 Vol. 36, No. 2 (日本学士院 1980, 6)
- 日本学術会議月報 Vol. 20, No. 11 ; No. 21, Nos. 1 ; 2 ; 4
 (日本学術会議広報委員会 1979, 11 ; 1980, 1 ; 2 ; 4)
- 日本民族学 Nos. 126 ; 127 (日本民族学会 1979, 11 ; 1980, 3)
- ノートルダム清心女子大学紀要 (国語・国文学編) Vol. 4, No. 1
 (ノートルダム清心女子大学 1980, 3)
- 広島大学文学部紀要 Vol. 39 ; 特輯号 1 ; 2 (広島大学文学部 1979, 12)
- 中嶋幹起『福建漢語方言基礎語彙集』
 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1979, 3)
- 文学研究 第77輯 (九州大学文学部 1980, 3)
- 方言研究年報 No. 4 (広島方言研究所 1979, 12)
- 方言談話資料 (3) —青森・新潟・愛知— ; (4) —福井・京都・島根—
 (国立国語研究所資料集 10—3 ; 4) (国立国語研究所 1980, 1)

- 法政大学文学部紀要 No. 25 (法政大学文学部 1980, 3)
- 放送文化 '79年12月号~'80年7月号 (日本放送出版協会 1979, 12~1980, 7)
- 民族学研究 Vol. 44, Nos. 3 ; 4 (日本民族学会 1979, 12 ; 1980, 3)
- 月刊 みんぱく '79年12月号~'80年5月号
(国立民族学博物館 1979, 12~1980, 5)
- 『毛利可信教授退官記念論文集』
(毛利可信教授退官記念論文集刊行会 1980, 4)
- 山口女子大学研究報告 No. 4 (人文・社会科学) (山口女子大学 1979, 3)
- 山口大学教養部紀要 Vol. 13 (人文科学篇) (自然科学篇)
(山口大学教養部 1979, 10)
- 山口大学文学会誌 Vol. 30 (山口大学文学会 1979, 11)
- 立正大学国語国文 Vol. 16 (立正大学国語国文学会 1979, 3)
- 論集 (神戸大学教養部紀要) No. 25 (神戸大学教養部 1980, 3)
- Acta Asiatica* (Bulletin of the Institute of Eastern Culture) 38
(東方学会 1980)
- EMMERICK, R. E.: *A Guide to the Literature of Khotan*, Studia
Philologica Buddhica Occasional Paper Series III (盞友会図書室 1979)
- Archív Orientální (Ar Or)* Vol. 47, No. 3 (Academia Praha, 1979)
- ELIMELECH, B.: *A Tonal Grammar of Etsako*, Linguistics Vol. 87
(University of California Publications, 1978)
- Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, Vol. XLII
Part 3, Vol. XLIII Part 1 (University of London 1979, 1980)
- Current Contents of Academic Journals in Japan* 1978
(Center for Academic Publications Japan 1970)
- Literature Music Fine Arts*, Vol. XII No. 2, Vol. XIII No. 1
(German Studies (Section III) 1979, 1980)
- Мовознавство 77(No. 5), 78 (No. 6) (Наукова Думка, Київ 1979)
- Naše Reč: Ústav pro Jazyk Český*, ročník 62, číslo 5, 1979
(Academia nakladatelství Československé akademie věd)

- Philologia* 12 (三重大学外国語研究会 1980, 3)
 Русская литература, No. 4; No. 1 (Ленинград 1979, 1980)
 Русский Фольклор, XLX (Ленинград 1979)
 Русский язык в школе, No. 6, Nos. 1; 2
 (Просвещение Москва 1979, 1980)
Slova a Slovensnost, ročník XL, číslo 4; ročník XLI, číslo 1
 (Československá Akademie věd 1979, 1980)
Studia Phonologica XIII (京都大学音声科学総合研究部会 1979)
 Вестник Ленинградского университета (История - Язык -
 Литература), Nos. 14; 20, Nos. 2; 8 (Ленинград 1979, 1980)
 Українська мова і література в школі, Nos. 1; 2; 3; 4; 5 (Київ 1980)

◇本誌は文部省昭和55年度科学研究費補助金の交付を得て刊行されたものである。